

城戸かれんさん&上野通明さん応援レポート

シャネル・ピグマリオン・デイズ

2016年2月27日(土) シャネルネクサスホール

若手アーティストが芸術を極めていく過程を支援

「シャネル・ピグマリオン・デイズ」。
東京・銀座のシャネルビル内のシャネル・ネクサス・ホールにて、若手のアーティストに演奏機会を提供するプログラムである。
毎年5名ほどの若手演奏家を支援しており、2016年は5名の中に、チェロの上野通明さん、ヴァイオリンの城戸かれんさんの財団奨学生2名が選出された。各々、シャネル・ネクサス・ホールにて年6回の演奏機会を得ることになる。

演奏会の名称は、シャネル社創始者であるガブリエル・シャネルが「ピグマリオンだった」といわれていることからのネーミングである。
「ピグマリオン」とは、ギリシャ神話に登場する彫刻の名人の名前。彼は自分の掘った美女の像に恋し、ついには神からその像に命を与えられる。これが語源となり、「ピグマリオン」は「才能を信じ、支援して、開花させる人」を示す言葉とされている。

無名時代の芸術家達の支援を続けた「ピグマリオン」ガブリエル・シャネル。「シャネル・ピグマリオン・デイズ」は、そのスピリットを踏襲している。ちなみに、シャネルが支援した無名時代の芸術家には、パブロ・ピカソ、イーゴリ・ストラヴィンスキー、レイモン・ラディゲ、ルキノ・ヴィスコンティ、ジャン・コクトーら、そうそうたる名前が並ぶ。

シャネル社ホームページの「シャネル・ピグマリオン・デイズ」の箇所には、城戸さんと上野さんの写真が掲載されている。シャネル社の方によりヘアメイクが施術され、いつもと異なる雰囲気新鮮だ。毎回のコンサート時にも、シャネル社の方々によるヘアメイクが行われるそうだ。



会場のシャネル・ネクサス・ホール。ブランドロゴと同様に、黒と白で統一されたホールはとてもシックな空間。プログラムも黒を基調に制作されている。

本日は、マチネ(昼の部)に城戸さん、ソワレ(夜の部)に上野さんが登場。城戸さんは本日が初回、上野さんは先週に続き2回目の演奏となる。

6回の演奏会のプログラムは、各々のアーティストの自由に任されている。テーマ構成や選曲にも興味がわく演奏会だ。



マチネ：城戸さん 初回はフランスの香りとともに



城戸さんが登場し、マチネが始まる。本日のピアノはパリに留学中の務川慧悟さん。

1曲目、サン＝サーンスのヴァイオリン・ソナタ第1番。印象深い曲調と難易度の高さから、サン＝サーンスの室内楽の代表作とされている。始まりは哀しげな影のある旋律から。ヴァイオリンとピアノとの掛け合いが美しい。だんだんとクレッシェンドしていく強い音、繰り返される主旋律、芯のある音がホールによく響く。後半に向けて軽快に、そして終楽章は華麗に伸びやかに輝かしく。超絶技巧の技量も迫力も満点に、初披露曲を聴かせてくれた。

1曲目を終え、マイクを持ってご挨拶。本日の城戸さんはアップスタイルでぐっと大人っぽい印象。シャネル社の方によるヘアメイクとブルーのドレスが決まっている。「・・・本日が初回となります。これまでのどの舞台よりも大変に緊張しています」と控えめなスタート。「6回を通して、様々な時代や国など、テーマを決めて構成していきたいと思っています」「本日は、『CHANEL』ですので、フランス音楽を選んでみました。ピアノも、フランスに留学中の先輩である務川さんにお願ひしました」「6回を通して、一步一步成長していけたら・・・と思います」

次の曲はフランクの「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」。友人イザイの結婚式に献呈したというこの曲、夫婦の人生をあらわしているのだそうだ。出会いのおとなしげな旋律、一転ぶつかりあうような太くはじける旋律、しっとり聴かせる低音のピアノシモ、そして終楽章は情感たっぷり。気品ある高音、抑えた低音、凜とした音色に客席もうっとり。名曲を見事に弾きあげた。

アンコールにはマスネの「タイス」の瞑想曲をしっとり。

終演した城戸さん、緊張から解放され、ホール出口にて、にこやかにお客様をお見送りしてマチネ終了。

<演奏会概要>

マチネ（昼の部）

◆出演

城戸かれん（ヴァイオリン）

務川慧悟（ピアノ）

◆プログラム

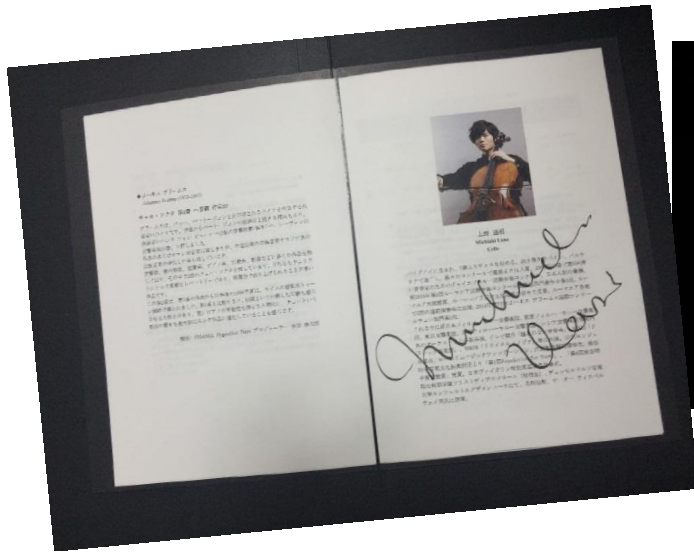
サン＝サーンス：ヴァイオリン・ソナタ第1番

ニ短調 作品75

フランク：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ
イ長調

アンコール曲 マスネ：「タイス」の瞑想曲

ソフレ:上野さん バッハの無伴奏ソナタ6曲を6回で



1時間ほどあいて、夜の部、ソフレのお客様の入場が始まる。上野さんの登場は、先週に続き2回目。1回目の好評を受け、客席の期待も高まる。

まずは上野さん1人で舞台へ。
最初の曲はバッハの無伴奏チェロ組曲第2番。バッハの無伴奏チェロ組曲は全部で6曲あり、チェロの「バイブル的存在となる楽曲として評価され、多くの演奏家の金字塔になっている」(プログラム楽曲解説より引用)。上野さんは、全6回の演奏会で、この無伴奏チェロ組曲1番～6番を毎回1つずつ聴かせてくれるプログラムを組んでいる(なお、組曲おのおのは6曲の舞曲で構成されている)。

組曲が始まる。
寂しげな風情の1曲目。低い重音が印象的。伸びやかに、深みのある音色がホール全体に響き渡る。厳かな曲調のなかにも、早い指使いの軽快な旋律、ゆったりとした旋律、低音をひびかせ、ぐいぐいと乗っていく。終曲は重音の美しさとラストにむけての熱情あふれる演奏。バッハの世界を見事に弾ききってくれた。

小休憩ののち、上野さんは、ピアノの山西遼さんとともに再び登場。マイクを持ってご挨拶。「...年間6回のプログラムは、毎回バッハの無伴奏と好きなソナタの組み合わせで構成しようと思っています」
「シンプルな構成ですが、毎回丁寧に演奏していきますので、楽しんでいただければ幸いです」

先週の初回演奏会はバッハの無伴奏1番とブラームスのチェロソナタ第1番というプログラム。
今回は、無伴奏第2番とやはりブラームスのチェロソナタ第2番というプログラムが組まれている。

ブラームスのチェロソナタが始まる。
華麗な入りからチェロの音が響く。弱い音、力強い音の対比も美しく。ピアノとの旋律の追いかかけ、ピッチカートで渋くはじける低い音の調べ、妖しく弾む音、繰り返される美しい主旋律。終楽章までのびやかに歌いこみ、スケール感のある演奏を聴かせてくれた。

アンコール曲は、ブラームスの「6つの歌曲から「愛のまこと」。「歌曲ですので歌詞を想像しながらチェロの音を聴いていただければ」と美しい旋律を奏でてくれた。

上野さんの演奏時、客席には演奏を終えた城戸さんの姿も。上野さんのリハーサル時に、「この曲、大好きなんです。弾いてみたいくらい」とつぶやいていたが、予定を変更して客席に。
上野さんの演奏を客席で聴き入る城戸さん、若き音楽家たちの幼き頃からの切磋琢磨をかいまみたような。

<演奏会概要>

ソフレ(夜の部)

◆出演

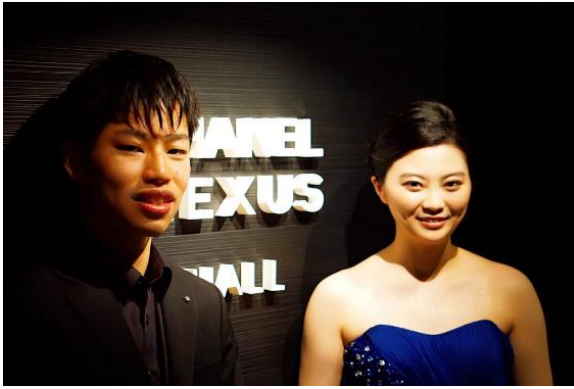
上野 通明(チェロ)
山西 遼(ピアノ)

◆プログラム

バッハ: 無伴奏チェロ組曲 第2番 二短調
BWV 1008
ブラームス: チェロ・ソナタ 第2番 へ長調
作品99

アンコール曲 ブラームス:
6つの歌曲から「愛のまこと」

全6回の演奏会。成長や変化を感じながら



ピアノの務川慧悟さんと

終演後の2人に話を聞いた。

城戸かれんさん

—初回、いかがでしたか；

「…この演奏会は『型』や『雰囲気』が確立しているので、人生で一番緊張しました。初回ということもありましたし…」

「『素』ではなく『演じて魅せる』ということにも重きがおかれていて」

「普段あまり着眼する機会のない、歩き方からMC(マイクをもってのご挨拶)まで、演奏以外の部分もたくさんご指導いただき、いろいろ学ぶことの多い本番でした」

アーティストとしての立場をぐっと自覚するきっかけとなったもよう。

—本日の選曲は；

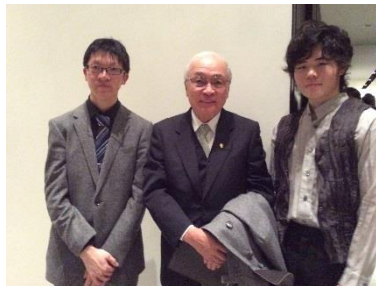
「…フランス音楽の中でも、ピアノとのやりとりが面白い曲を選びました。サン=サーンスは、初披露です…」

—終楽章、熱い演奏でしたね；

「…心臓が止まるかと思いました(笑)」

「緊張もあって、思い通りの音が出せない部分もあったのですが、後半のフランクは楽しんで弾けました」

演奏でこころがけているのは、人間味のある感動をということ、演奏するときには「こう弾こう」とは考えていないという城戸さん、感じるがまま、感性に満ちた演奏が魅力的であった。



上野さんはパラグアイ生まれ。駐日パラグアイ大使のトヨトシ・ナオユキ氏(中)、ピアノの山西 遼さん(左)と



上野通明さん

—2回目を終えられて；

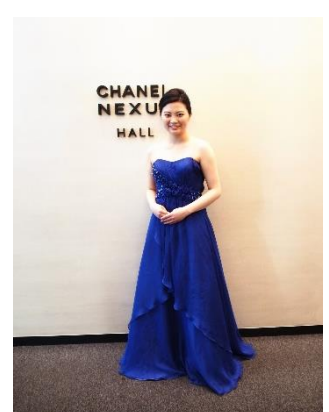
「…ホールも、お客様も、いつもとは違った雰囲気のコンサートで。今日は2回目なので、前回よりはのびのびできたように思います。苦手なMCがあると、そちらに気をとられてしまって(笑)」

—統一感のあるテーマ構成ですね；

「…バツハと、もう1曲は、自分を知っていたくには、まずはこれと思ったブラームスのソナタを2回続けて選んでみました」

「シンプルな極みのようなプログラムですが、一回一回丁寧に作り上げ、自分の出す一音一音によって自分を知っていただけるように演奏したいです」

城戸さん、上野さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！



城戸さんの舞台ドレス姿。ホール入口にて



2016. 2. 27 CHANEL Pygmalion Days

城戸 かれん (ヴァイオリン)
高川 慧悟 (ピアノ)

- サン＝サーンス: ヴァイオリン・ソナタ第1番 = 収録 作品75
Saint-Saëns: Violin Sonata No. 1 in D minor, Op. 75

I. Allegro vivace
II. Adagio
III. Allegretto moderato
IV. Allegro molto

— 休 憩 —

- フランク: ピアノとヴァイオリンのためのソナタ イヌヴィ
Frank: Sonata for Piano and Violin in A major

I. Allegretto ben moderato
II. Allegro
III. Recitativo - Fantasia: Ben moderato - Molto lento
IV. Allegretto poco mosso

保 泉

- シャルル・カミーユ・サン＝サーンス
Charles Camille Saint-Saëns (1835-1921)

ヴァイオリン・ソナタ第1番 = 収録 作品75

サン＝サーンスはフランスの作曲家でピアニスト、オルガン奏者でもあり、クラシック音楽のあらゆる分野に多くの作品を残し、フランス近代音楽の基礎を築きました。最も知られている曲の一つに、組曲「動物の戯曲集」があります。オーケストラ同様、幼い頃から音楽的才能を磨練していましたが、作曲家だけでなく教育、詩、戯曲、哲学、天文学などにも精通する極めて多才な人でした。

この曲は、サン＝サーンスの残した3曲のヴァイオリン・ソナタのうち第1番で、サン＝サーンスの室内楽の分野における代表作の一つです。同時期に作曲された交響曲第3番と構成も曲想も類似点が多く、2つの楽章が更に2つの部分から成るという構成が特徴的で、4楽章と捉えることができます。音楽家は目もくなく演奏され、古典的なソナタ形式を超越した名曲です。この曲の終楽章は、皆びやがで賑わしい羅動感に満ち溢れサン＝サーンス特有の叙情性が漂っており、一番の聴き所です。

【コンサート・プログラム マチネ:城戸かれんさん P.3~P.6】

◆セザール フランク César Franck (1822-1890)

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 長調

現在のベルギーである、ネーデルラント連合王国に生まれたフランクは、幼い時からピアノの才能を見出され、パリ国立音楽院でピアノ、オルガンを学びます。演奏家にさせなかった父親から離れ、フランスで作曲家を目指し、宗教音楽やオラトリオを専攻しました。作曲家としての経歴は、晩年から没後に脚光を浴びることとなります。1871年には、フランスの作曲家サン＝サーンスやフォーレと、フランス間音楽協会の創立に寄与しました。ワーグナーやリストの影響を受けつつ、ドイツ音楽とは異なる独自の音楽性を持ち、フランス近代音楽の道筋を作りました。

この曲は、四重奏のヴァイオリニスト、イザイの結婚式に献呈された作品で、64歳の時に作曲しました。フランクの作品によく見られる、循環形式（モチーフとなる旋律を複数の楽章で繰り返し使用することにより、曲全体の統一感をもたらす手法）が用いられています。唯一のヴァイオリン・ソナタ作品で、その優れた和声技法、美しい情景が浮かぶような各楽章の詩的な表現方法は、彼の最高傑作と賞われています。

また、ピアノとヴァイオリンの他にも、多くの楽器に編曲されている人気の高い作品です。

解説：CHANEL Pygmalion Days プロデューサー 坂田 康太郎



城戸 かれん
Karen Kido
Violin

1994年東京生まれ。鎌倉市小・中・高学生音楽コンクール総合第1位、全日本学生音楽コンクール中学の部全国第1位、ミケランジェロ アバド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)第1位、ジュールジュ エネスコ国際コンクール(ブカレスト)特別賞を受賞。2010年、東京芸術大学附属高校1年在学中に、松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞する。翌年第80回、第3位入賞。東京芸術大学に入学し、大学内にて最高賞(1学年最優秀音楽専攻学生)受賞。第8回レオポルド モーツァルト国際コンクール、ヤングアーティスト賞。

小澤国際音楽アカデミー奨学金をはじめ国内外のセミナーで研鑽を積む中、いしかわミュージックアカデミーIM音楽賞、カール フレッシュア카데미協会賞、ミュージックアカデミーのみぎさき優秀賞及び特別賞を受賞する。東京シティ・フィル、バーデン・バーデン・フィル、日本フィル、都響、宮崎国際音楽祭管弦楽団と共演。これまでに三浦泰雄、原田幸一郎、徳風朝子、堀正文、宮内泰を江口昂、河野文明の各氏に師事。徳永二郎、川崎雅夫、Pアメイナルの各氏にレッスンを受ける。

現在、東京芸術大学3年在学中。ヤマハ音楽院学生(2011-2013)、江刺記念財団奨学生(2014-)、青山財団奨学生(2015)。

藤川 慧悟

Krigo Mukawa
Piano

1990年愛知県出身。愛知県立星丘高等学校を卒業後、東京芸術大学に入学。2014年パリ国立高等音楽院に音楽奨励賞で合格し修了。現在、同音楽院にて研鑽を積む。

第62回全日本学生音楽コンクール中学校の部全国大会第1位、第14回松方ホール音楽賞を最年少受賞。第81回日本音楽コンクール第1位。東京芸大大学内において、アリアドネ・ムジカ賞受賞。第20回山古音楽コンクール室内楽部門第1位。第13回エドナルド国際ピアノコンクール(フランス)第2位。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、NHK名古屋青少年交響楽団、コレージュ国立管弦楽団等と共演。

2019年度公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生。

現在、フランク ブラフレイ、上田晴子、テオドール バウスキグヴェスコ、青柳尊、横山幸徳の各氏に師事。

CHANEL Pygmalion Days 2016のご案内

	【マチネ】 14:00- (13:30開場)	【ワレ】 17:00- (16:30開場)	公演 開始	締切	公演期間 とメールにて ご連絡
4月	29日(土) 佐藤 綾子 (ヴァイオリン) *東京フィルハーモニー交響楽団	藤原 美生 (チェロ)	豊村 幸	3/5 (土)	3月中旬～ 28日まで
	30日(土) 城戸 かれん (ヴァイオリン)	富井 もえり (ヴァイオリン)			
5月	7日(土) 上野 達明 (チェロ)	土城 結希 (ヴァイオリン)	3/1 (水)	4/5 (水)	4月中旬～ 28日まで

＜お申し込みについて＞

●ご応募はシャネル銀座ホームページ <http://www.chanel-gro.com/www/atl/>より受け付けております。[無料・抽選制]

●インターネットからお申し込みいただいた場合は、シャネル・ネクサス・ホール事務局にてお電話でお答えを承ります。

●既報メールからのご応募は無効となります。ご注意ください。

●1公演に複数回お申し込みいただきました場合でも、ご応募1公演につきお一人様1回の受付となります。

●抽選の結果は抽選なる抽選の上、当選メールの発送をもってかえさせていただきます。メール・電話等での抽選結果に関するお問い合わせはお受けできませんので、ご了承ください。

●ご来場は、当選者ご本人様およびその関係者に限らせていただきます。尚、当日受付にてご本人確認をさせていただきます場合がございますので、予めご了承ください。権利の譲渡、買取りはできません。

●キャンセルの場合はシャネル・ネクサス・ホール事務局までご連絡ください。複数回キャンセルが続きましてご応募いただけなくなる可能性があります。

●公演での遅刻・早退等の行為は固くお断りしております。

●天災等の影響により中止となる場合は、ホームページ上、および直接皆様へメールにて事前に告知いたします。

【お問い合わせ先】

シャネル・ネクサス・ホール事務局

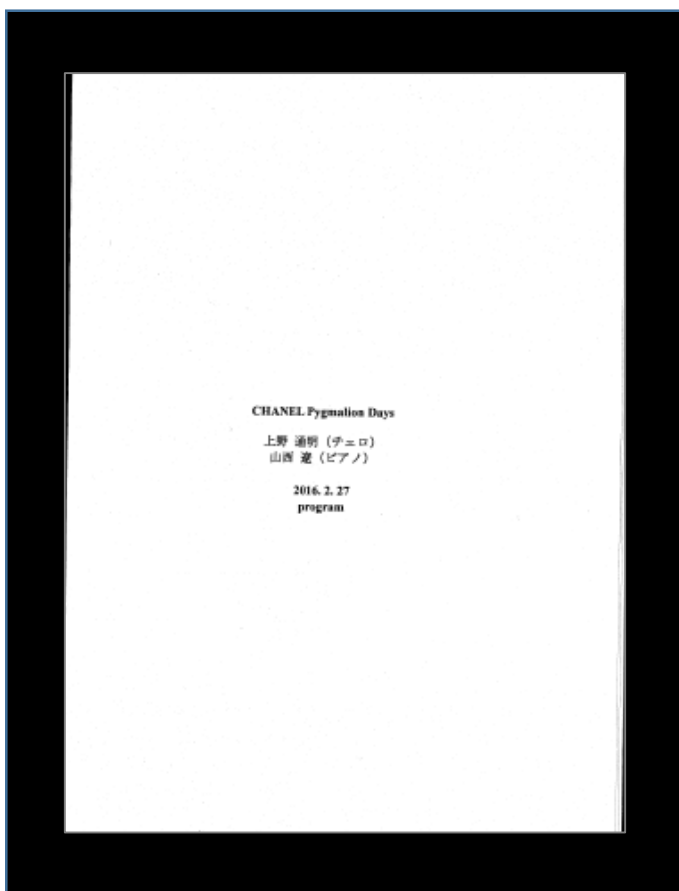
TEL: 03-3719-4001

月～金 13:00～19:00

土 13:00～19:00 (コンサート開催日は11:00～19:00)

日・祝祭

【コンサート・プログラム ソワレ:上野通明さん 表表紙~P.2】



CHANEL Pygmalion Days

上野 通明 (チェロ)
山西 遼 (ピアノ)

2016.2.27
program

2016.2.27 CHANEL Pygmalion Days

上野 通明 (チェロ)
山西 遼 (ピアノ)

- バッハ: 無伴奏チェロ組曲 第2巻 二重調 BWV 1028
Book: Cello Suite No. 2 in D minor BWV 1028

I. Prelude
II. Air on the G String
III. Courante
IV. Sarabande
V. Minuet I-II
VI. Gigue

— 休憩 —

- ブrahms: チェロ・ソナタ 第2巻 へ長調 作品 99
Book: Cello Sonata No. 2 in F major Op. 99

I. Allegro vivace
II. Adagio sostenuto
III. Allegro passionato
IV. Allegro molto

解説

- ヨハン セバスティアン バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

無伴奏チェロ組曲 第2巻 二重調 BWV 1028

バッハはバロック期を代表する作曲家で、数多くのカンタータ、オラトリオ、オルガン作品、器楽作品を残しています。女性バートーヴェンを始め、モーツァルト、ショパン、シューマン、ブラームスなど大作曲家たちに大きな影響を与え「音楽の父」と称されています。また、一説から多くの音楽家を輩出しており区別するために「大バッハ」と呼ばれることもあります。無伴奏チェロ組曲は、第1巻 (BWV1007) から第6巻 (BWV1012) まで6巻あり、全ての組曲がそれぞれ一つの調性で書かれています。更に組曲の構成は、前奏曲、アルマンド、クーラント、サラバンド、メヌエット、ジューダの6曲の舞曲に当たります。活版、練習曲と目されてきた組曲でしたが、スペインのチェロ奏者カザルスによってチェロのバリエーション的存在となる楽曲として評価され、多くの演奏家の金字塔になっています。どの曲も舞曲としての形式はあるものの、その音楽的構成は多声的であり、複雑な色合いを醸し出す名曲です。

この第2巻は第5巻と共に組曲で書かれた作品で、最も華麗を備えた美しい曲です。無伴奏チェロ組曲は、楽譜に比べて難易度が上がるとされており、この曲も、第1巻より更に高度な技術が必要とする楽曲です。組曲であるが故にメヌエットもその構成に変化をつけるなど、あるいはジューダもリズム的な動きの表現力を要求されます。

【コンサート・プログラム ソワレ:上野通明さん P.3~P.6】

◆コハネス プラームス Ashken Brakes (1833-1897)

チェロ・ソナタ 第2番 ヘ長調 作品09

プラームスは、バッハ、ベートーヴェンと並び称されるドイツを代表する作曲家のひとつです。作曲からベートーヴェンの追随者と捉えらる傾向もあり、指揮者のヘンス フォン ビューローは彼の交響曲第1番を「ベートーヴェンの交響曲第10番」と評しました。

作品の多くはロマン派音楽に属しますが、中央欧米の古典音楽やスラブ系の民族音楽を研究した前も残しています。

交響曲、室内楽曲、協奏曲、ピアノ曲、歌曲、舞臺など多くの作品を残しており、その中で最もチェロ・ソナタを残しています。どちらもチェロリストにとって重要なレパートリーであり、演奏会で取り上げられることが多い作品です。

この楽譜は、楽譜の作曲家から19年長の1854年夏に、スイスの避暑地トーン湖畔で書かれました。第1番と比較すると、3歳という若さの年齢も感じさせる力強さがあり、更にピアノの私観性も捉えたと同時に、チェロという楽器の響きを最大限に活かす作品に感じていることを感じます。

解説: CHANEL Pygmalion Days プログラマー 坂田 康太郎



上野 通明
Michiaki Ueno
Cello

バダライに生まれ、1歳よりチェロを始める。幼少期をスペイン、バルセロナで過ごし、数々のコンクールで優勝または入賞。2014年12歳で第6回世界音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、日本人初の優勝。翌2014年第4回ルーマニア国際音楽コンクール最年少部門第1位、ルーマニア大衆賞、ルーマニアラジオ文化賞賞を受けて受賞、ルーマニア各地で同様の追放賞会に出演。2014年第2回コハネス プラームス国際コンクールチェロ部門第1位。

これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団等国内外のオーケストラと多数共演。テレビ朝日「聴かない音楽会」、NHK「クラシック倶楽部」、NHK「リサイタル/ガ」等に出演。京大エンジェル協会、ロームミュージックファンデーション、江原記念財団奨学生、岩谷時子音楽文化財団財団より「第1回Foundation for Youth」、「第4回奨励賞」受賞。日本ヴァイオリン学校奨励賞対象者、東京国際音楽ソリストディプロマコース（特待生）、デュセルドルフ音楽大学コンヴェルトエタゲメンコースにて、毛貝信雄、ピーター・ウィスベルグ氏に師事。

CHANEL Pygmalion Days 2016のご案内

	【午前十】 14:00~ 【18時開場】	【ソワレ】 17:00~ 【18時開場】	応募 開始	抽選	当選発表 （メールにて ご連絡）
4月	23日(土)	藤原 結子 (ヴァイオリン) *東京国際音楽コンクール	受付 中	2/3	3月中旬~ 20日まで
	30日(土)	坂井 ちか子 (ヴァイオリン)			
5月	7日(土)	上野 通明 (チェロ)	3/1 (土)	4/5 (土)	4月中旬~ 20日まで

お申し込みについて

- ご応募はシャネル銀座ホームページ(<http://www.chanel-ginza.com/tenastok/>)より受け付けております。(無料・抽選制)
- インターネットからお申し込みいただける場合は、シャネル・ルクサス・ホール事務局にてお電話やFAXでご応募を承ります。
- 携帯電話からの応募は無効となります。ご注意ください。
- 1公演に複数回お申し込みいただいた場合でも、ご応募は1公演につきお一人1回の受付となります。
- 抽選の結果は抽選当日抽選の上、当選メールの発送をもってかまさせていただきます。メール配信時での抽選結果に関するお問い合わせはできませんので、ご了承ください。
- ご応募は、当選者ご本人様およびその同業者様に限らせていただきます。尚、当日受付にてご本人確認させていただきます場合がございますので、予めご了承ください。権利の譲渡、譲渡はできません。
- キャンセルの場合はシャネル・ルクサス・ホール事務局までご一報ください。複数回キャンセルが続きますとご応募いただける可能性がございます。
- 会場での撮影・録音等の行為は固くお断りしております。
- 天災等の影響により中止となる場合は、ホームページ上、およびお届き届くメールにて事前にお断りいたします。

【お問い合わせ先】
シャネル・ルクサス・ホール事務局
TEL: 03-5779-4061
月～金 13:00～20:00
土 13:00～18:00 (コンサート開催日は11:00～18:00)
日・祝祭日

山西 遼 Ryo Yamashita Piano

2011年第6回日本学生音楽コンクール高校の部全国大会最優秀、併せて横浜市市民賞（聴衆賞）を受賞。

12年ザルトブルク・コンクール国際室内楽コンクールユース部門第1位を受賞。第1回新ピアノ・コンペティション第1位を受賞。同年、第13回国際室内楽音楽祭にて松本繁夫氏のマスタークラスに参加し、藤島国際音楽祭を受賞。

15年第6回シリア国際音楽コンクール最優秀部門、室内楽部門、室内楽の特別賞（1位）を受賞。同年、ボーンデン・夏期国際アカデミー（ドイツ）にてカルメン・ピアツォーニ氏のマスタークラスに参加し、Special Prize（最優秀賞）を受賞。11年には賞状授与のバリエーションソナタを演奏。

これまでにピアノを北川隆代氏に師事。現在長澤多佳子、下田浩二、野島悠也の各氏に、室内楽を北本秀徳、藤井一廣の両氏に師事。現在、東京音楽大学音楽学部3年在学中。